～人権が尊重されるまちをつくろう～
～身近な生活の中から学ぼう～

2023.10.20
第81号

人権・同和教育だより 丹波篠山

発　行
丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6・10・2月

2023年12月9日（土）13:00～16:00
第21回 人権フェスタ in 丹波篠山

会場 ： 丹波篠山市立田園交響ホール

開会行事、あいさつポスター・人権作文受賞者表彰及び作文発表 等 〔13:00～〕

第25回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

主催：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会

テーマ：誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくり

大会趣旨

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念としてきました。コロナ禍の3年間における急速な情報化や社会情勢の変化により人権課題はさらに多様化・深刻化しましたが、部落差別について学ぶとあらゆる人権問題が見えてきます。今大会は、部落差別解消を原点とし、あらゆる差別解消をめざし、誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくりの実現につなげたいと思います。

基調講演
14:00～15:50

演 題 『誰もが輝いて生きるために 』
講 師　坂田 かおり さん（部落解放・人権研究所理事／人権テイク・ルート代表）

あなたも丹波篠山市人権・同和教育研究大会に参加してみませんか？

※どなたでも参加できます。手話通訳・要約筆記あります。託児できます（要予約）

※気象状況や新型コロナ感染拡大状況により、変更・中止になる場合があります。その場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。
12月8日（金）までは、電話で問い合わせいただいても結構です。（TEL：593-1260　月・火・木・金）

「人権・同和教育セミナー2023より

差別解消のためには、正しく知ることが大切です。人権・同和学習を深める場として、1年にわたる連続講座を企画しています。人権問題は多様化しているなか、部落差別の現実をみると社会の矛盾がみえてきます。部落差別を学ぶとあらゆる人権問題がみえてきます。セミナーの様子と参加者の感想を紹介します。

第1回　8月5日（土）開催
「水平社宣言と日本国憲法をつなぐもの」
講師　上杉 聰さん（元大阪市立大学教授）

1871年の「解放令」が実質的には、部落差別を禁止する解放令ではなかったという事を説明いただきました。

その後、西光万吉を中心に「全国水平社」が結成され、人間は「尊敬」すべきものとして、差別解消にむけての活動がはじまりました。そして戦後、日本国憲法に、「全国水平社」の理念、差別を禁止する等が盛り込まれた経緯をお話いただきました。

【参加者の声】

◇日本国憲法がどのような対話によって作られたか、どのような想いが込められていたか分かりました。日本国憲法を大切にしたいと思いました。

◇日本国憲法に差別を禁止していることが明記されていることを初めて知ることができました。明治になってもなくならなかった差別をなくしていこうとした憲法の良さに改めて気づくことができました。

◇貴重な資料にもとづき、部落差別の本質を踏まえた非常に良い内容でした。憲法と部落差別の関係もよくわかり勉強になりました。

第2回　9月2日（土）開催
「人の世に熱と光を　ー水平社創立の思想に学ぶー」
講師　駒井忠之さん（水平社博物館 館長）

水平社宣言から差別を克服するキーワードを紐解き、その「綱領」と「宣言」に込められた理念と思想を詳しく説明いただきました。また100年前に宣言された水平社宣言は、いまや世界でも認められる人権宣言であると紹介いただきました。

差別を解消するためには、教育により正しく理解し、正しく判断すること、また常に自分の差別性と向き合い葛藤することの大切さを語られました。

【参加者の声】

◇人権学習、研修など今回のようなことに何度も参加させていただく中で、「人間を尊敬する」「人と自分を大切にする」ということがさらにできる人でありたいと思いました。

◇「人権とは堅苦しく暗いものではない。明るいものである」と冒頭に言われたことが印象に残りました。

◇「人権の未来は教育で変えていける」というのは全く同意です。私自身学びの場を与えていただき感激するとともに子どもたちにこそ知ってほしいと思います。

◇水平社宣言にある「熱」というのは、差別への怒りや強さと感じていましたが、「warm」というとらえ方に、この宣言の暖かさを感じました。

第3回　9月30日（土）開催
「無関心でいられても、無関係ではいられない人権問題」
講師　松村元樹さん
（公益財団法人反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長）

差別というのは意識的にする場合だけではなく、無意識のうちに歪みや偏りをもってしまうものだと、様々な事例を挙げて説明いただきました。そして差別を無くすには、マイノリティ（少数派）ではなく、マジョリティ（多数派）が変わるべきであることを語られました。

また、何も教えないことは差別をする人をつくりだし、何もしないことは差別を維持してしまうと教えていただきました。

【参加者の声】

◇差別は、思いやりや優しさしさだけではなくせないということが大きな気づきでした。

◇経験を踏まえたわかりやすい内容で自分自身の行動、言動を振り返り、自分に置き換えながら学習することができました。

◇マジョリティの特権について考えることができました。ある時はマイノリティでも、それ以外ではマジョリティであり、知らず知らずのうちに差別行動をしてしまうということが理解できました。

みんなの人権を考える映画会『破戒』より

(C) 全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

全国水平社創立大会から100年をむかえ、それでもなお人々の心から差別を無くす難しさに声をあげるため、島崎藤村の『破戒』が映画化されました。

映画の台詞にもあるように、「なぜ自分の故郷を語れないのか」と部落差別に苦悩する主人公の苦しさを知り、正しい教育が差別を無くすことを学びました。

参加者の声

- 当時、このようなことがあったことを改めて知ることができました。良いことが後々引き継がれるのなら嬉しいことですが、良くないことが延々と引き継がれるのは悲しいことです。
- 考えさせられるテーマの映画で日常生活の中で自分に置き換えて考えてみたいと思いました。
- また一つ学びになりました。差別という理不尽に立ち向かう人でありたいです。
- 個人の問題ではなく、社会の問題としてとらえ、差別で苦しむ人をなくしていかなくてはいけないと学習ができました。

専門部会研修会・セミナー など

掲示板

＊地域部会研修会
第2回～第5回の人権・同和教育セミナーから一つの研修会を選んで参加

＊学校部会研修会
10月20日（金）15：00～16：30
内容：「同和教育を学級づくりの柱に据えて～みんなが幸せに生きる社会をめざして～」
講師：細田　亜矢子 さん（青垣小学校　教諭）
場所：丹波篠山市民センター　催事場1・2

＊第４回人権・同和教育セミナー
11月3日（金）14：00～16：00
内容：「部落差別の現状と人権教育・啓発の課題－部落差別をどう語り、伝えるのか」
講師：石元　清英 さん（ひょうご部落解放・人権研究所　所長）
場所：丹南健康福祉センター　研修室

＊共生（仮）部会研修会
11月5日（日）13：30～15：00
内容：「ぐちを言うより変えていこう」
講師：中川　智子 さん
（丹波篠山市男女共同参画アドバイザー／前宝塚市長）
場所：丹波篠山市民センター　多目的ホール
※この研修会は男女共同参画センターと共催です。

＊保・幼部会研修会
11月9日（木）18：30～20：00
内容：「子どもの人権と不適切保育について～子どもの思いを大切にした保育～」
講師：山縣　文治 さん（関西大学教授）
場所：丹南健康福祉センター　研修室

＊障がい者部会啓発チラシ配布
「障害者週間12月3日～9日」
12月4日（月）に市内9カ所にて啓発チラシ配布。
※ホームページにて配布場所・配布時間をお知らせします。
12月24日（日）市民センターまつりにて啓発チラシ配布。

＊PTA 部会研修会
1月21日（日）13：30～15：00
内容：「不登校について」
講師：原　清治 さん（佛教大学副学長）
場所：丹南健康福祉センター　研修室

＊第５回人権・同和教育セミナー
2月3日（土）14：00～16：00
内容：「部落差別と女性差別の交差～部落女性の解放運動からみえる私たちの社会」
講師：熊本　理抄 さん（近畿大学　人権問題研究所　教授）
場所：丹南健康福祉センター　研修室（予定）
※開催場所が変更になった場合はホームページでお知らせします。

＊企業部会研修会
3月予定
内容：映画「チョコレートな人々」上映
場所：丹波篠山市民センター　多目的ホール
※共生部会（仮）、障がい者部会の研修会も兼ねています。

＊高齢者部会研修会
市内各老人クラブ単位で実施します。

※上記の研修会等は気象状況や新型コロナ感染拡大状況により中止や変更する場合があります。

暮らしの中から

地域のホットステーション ～味間ふれあい館の取り組み～

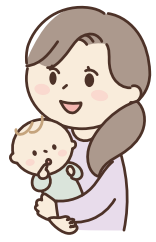
いつも味間ふれあい館を利用している一人として、今回はその取り組みについて紹介します。

味間ふれあい館には２人の職員（館長さんと指導員さん）がいて、来館者にはいつも親切な対応をしてくださいます。ふれあい館では、周辺地域の方も含めて様々な学習会や各種教室、視察研修等を通して交流を深め、お互いの思い込みや偏見を取り払い理解することをめざしています。また一人暮らしの高齢世帯の方を中心に訪問活動を行っています。私も地域の民生委員児童委員として、個人情報等に配慮しつつ情報を共有しています。

ふれあい館では、茶道、パソコン、フォークダンス、料理教室等16サークルが利用しています。利用者は昨年度のべ1700人余り。サークル以外でも、のべ約1000人の利用がありました。また、隣接する児童館とも連携して、子ども教室の講師や母親クラブ地域交流まつり等の事業にも協力しています。

この春から施設内のトイレに生理用品を常備するようになりました。そのきっかけは、「本来、トイレットペーパーと同じように備え付けてあれば、女性のストレスも少しは軽減され、誰にとっても優しい社会になるのではないでしょうか」との古市にある宗玄寺・酒井住職の言葉でした。そして酒井住職は宗玄寺のトイレに置かれたそうです。この思いに賛同したふれあい館と児童館でも「お困りの方はお使いください」のメッセージを添えて、トイレに常備するようになりました。急に必要になった方や、高齢者の方に大変喜ばれているそうです。常に弱い立場の人に寄り添う取り組みは、誰の日常をも豊かにするものだと感じました。

ある日、幼子を連れたお母さんが「ちょっと話を聞いてください」と駆け込んで来られました。ちょうど私もその場に居合わせたので一緒に話を聞きました。



個人情報のため詳しくは書けませんが、深刻な問題だったため関係機関とも連携して解決策を探りました。

また別の日には、児童公園にいた元気がない若いお母さんに館長さんが声をかけて話を聞きました。悩みを抱えていたその人は、泣きながら心配事を打ち明けました。相談相手もないその人は多くの問題を自分一人で抱え込んで、精神的にも落ち込んでいる状態でした。ただ、親身になって話を聞いてもらえる人がいることで、うつむいていた顔が笑顔に変わったのでした。

こうした一つ一つの小さな取り組みが、地域に住む人々を元気にしています。

これからも「地域のホットステーション」であってほしいと願っています。どうぞ一度お立ち寄りください。

（西田　こず枝）

ボクたちはどうする？～夫婦のつながり～

結婚してから17年が経ち、ボクと妻ともに50歳を迎えた。50歳かぁ…と、ふたり揃って、半ば溜息と半ば感慨が混じり合う今日この頃だ。

それはさておき、歴史好きの子どもとともに、久しぶりにNHKの大河ドラマを見ている。「どうする家康」のタイトルがどうも軟派な印象で、初めは子どもの付き合い程度の感覚だったが、見始めると面白くなってきた。

ドラマ前半では、家康と正室・瀬名（築山殿）との夫婦模様が、妻からの目線、夫からの目線、互いの思いやり、家族のつながり、家臣団との関係など、様々な角度から描かれている。その中で、ボクが印象深かった、というよりドキッとしたのが、それぞれに気持ちがすれ違うシーンだ。

ボクと妻も、子どもが生まれて少し経ってからそういう時があり、会話にならないことがあった。原因の大半はボクにあり、仕事が忙しくて子育てに多く関われなかったからだ。あるとき、ボクが子どもを風呂に入れようとすると、妻は「自分でするからっ！」と凄い剣幕でボクを押し退けたことがあった。知らず知らずに妻を孤立させてしまっていた。瀬名の表情と心情が、その時の妻と重なっていく。

で、ボクたちはどうしたかというと、その直後だったか、子どもが寝たあと、本音を出し合った。どうも、それぞれのしんどい状況を意識しすぎて、お互いにコミュニケーションをためらっていたようだ。言いたいことを言って、わだかまりが溶けたら、ボクも妻も涙、涙だった。

ドラマでは、すれ違っていた家康と瀬名が、やがて絆を取り戻していく。ところが悲劇に巻き込まれ、結局、瀬名は自害に追いやられる。家康の心境はいかばかりだっただろうか。

そういえば、ここ最近は、ボクと妻のすれ違いはなくなった。年の功なのか、学習のおかげなのかわからないが、ひとつ言えることは、ちょっと悩んだとき、ちょっと確認したいとき、些細なことでもコミュニケーションをとるようになった。そうすると、自ずとお互いの立場を尊重するようにもなったと感じている。

さて、休日の昼時が近づいてきた。「今日のご飯はどうする？」「久しぶりに外食するか！」、そんな他愛のない対話が大切なのだ。

（安井　聡博）

フィールドワーク　在日コリアンの生き方から学ぶ ～ウトロ平和祈念館見学・フィールドワーク～より

今年度は宇治市にあるウトロ平和祈念館に行ってきました。朝鮮人のまちウトロ地区は様々な困難に直面しながらも、ウトロに寄り添ってきた人々が協力して尊厳と生活を守ってきました。そうした歴史から人権と平和の大切さを学びました。

移設された家屋を見学する様子

参加者の声

- 展示物の中に「差別意識が作り出され偏見意識が国民の中に広められた」とあった一文が心に深く残りました。
- いろいろな事を正しく知ることの大切さ、他人事と捉えず自分のこととして感じていくことの大切さを学びました。
- 個人では距離的になかなか行きにくいのでこのような機会は本当によかったです。
- まず、これまでの歴史について「知る」「学ぶ」ということが大切で、そこから考えて行動していくことが必要だと感じました。

住民会費・企業会費の納入に感謝いたします

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在3,267,200円の会費を納めいただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊敬し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。

編集後記

今年度の映画会は、島崎藤村の長編小説が映画化された『破戒』を上映しました。関心の高さもあり、非常に多い参加者がありました。

映画の中で、差別が簡単になくならない現実から、主人公が「人間というのは、それほど愚かな生き物なのでしょうか」と問うと、被差別部落出身の小説家は「愚かではない。弱いから差別する」と答えます。「弱さ」によって人はより弱い人を差別します。そして自分が上位に立つことで「強さ」と勘違いしてしまうのではないでしょうか。しかしそれは決して強くなったわけではありません。本当の「強さ」とは、客観的に自分の「弱さ」に向き合い、そして認め、自分以外の人の「弱さ」にも寄り添える心だと感じました。